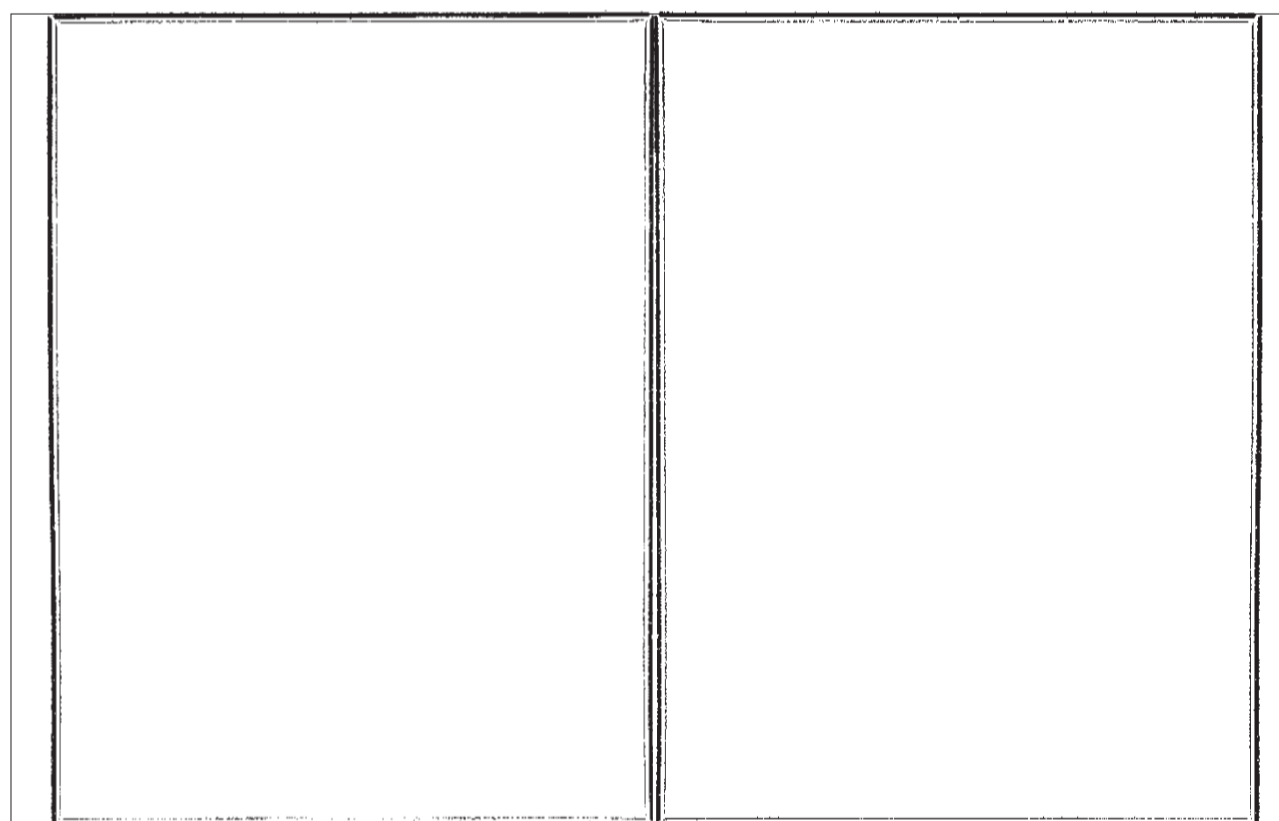
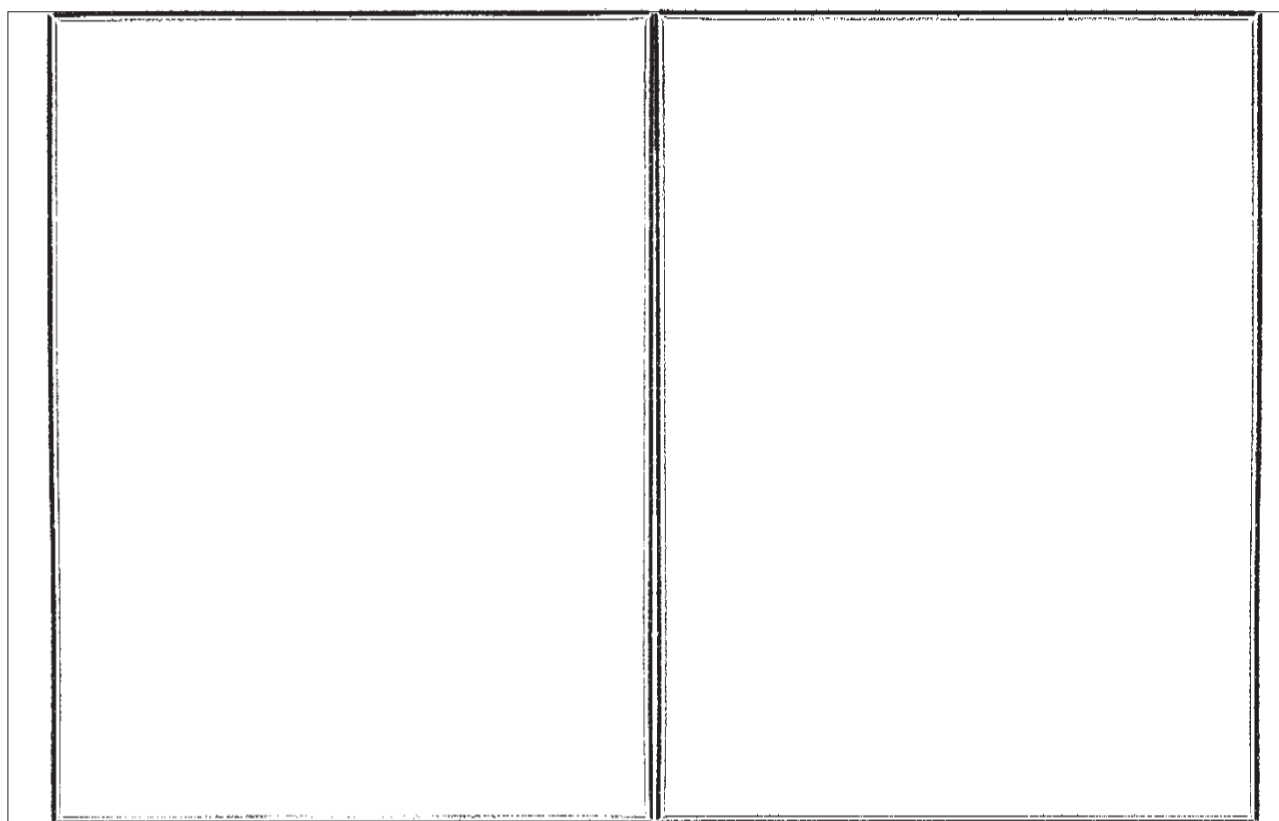


明治四十四年民團事務報告

天津居留民團



明治四十四年民團事務報告目次

(一) 庶務部

一、行政委員	一
二、行政委員の事務分担	三
三、行政委員回數及議事件名	四
四、出納検査委員	一二
五、新規則及改正規則	一三
イ、日本圖書館規則中改正	一三
ロ、慈善基金規則中改正	一三
ハ、民團吏員旅費規則中改正	一四
ニ、百斯篤病豫防救治に従事する吏員手當給與の件	一四
ホ、百斯篤病感染死亡吏員及臨時備員手當の件	一四
ヘ、天津尋常高等小學校職員旅費規則中改正	一五
ト、天津尋常高等小學校職員給與規則中改正	一五
チ、取得課金規則中改正	一六
リ、營業課金規則中改正	一七
ス、雜種課金規則中改正	一七
ル、碼頭規則中改正	一八

(1)

(2)

(二) 財務部

一、臨時財源調査會章程	一八
二、臨時防疫費特別附加金賦課徴收の件	一八
三、消防に關する件	一九
四、警備費國庫支辨に關する請願	一九
五、消防器具置場希望地處分に關する諮問と警備台の移轉	二二
六、領事館令改正に關する申請	二三
七、電車進行方向變更に關する諮問	二四
八、清國電話業務改良に關し英國工部局の通知	二五
九、臨時財源調査會委員	二九
一、不用道修繕下付	三〇
二、共同築地鑿造に關する建議	三一
三、感謝狀の贈呈	三一
四、銀器贈呈	三三
五、吏員の異動及現在員	三四
六、出納検査	三五
七、天津尋常高等小學校職員旅費規則の改正	三六
八、雜種課金規則及取得金營業課金規則の改正	三六
九、臨時防疫費特別附加金賦課徴收に關する制定	三六

(3)

(4)

(三) 學務部

一、慈善基金の支出	三七
二、四十三年度豫備費支出	三八
三、電車公司の配當金と營業人力車鑑札料不足額の受領	三九
四、臨時防疫費支出と國庫補助金の下付	四〇
五、取得營業雜種課金負擔者表	四四
イ、取得課金負擔者表	四四
ロ、營業課金負擔者表	四四
ハ、雜種課金負擔者表	四五
六、明治四十四年度居留民團歲入出總計豫算	四七
七、明治四十四年十二月末現在居留民團財產表	四五
イ、預金及現金	五五
ロ、土地	五六
ハ、建物	五六
ニ、水道	五六
ホ、物品	五七
八、天津尋常高等小學校	五八
イ、伏見宮殿下紀念少年文庫	五九
ロ、仙波少將紀念圖書器械標本	五九

(四) 土木部

一、小學校職員研究會	六二
二、議會	六二
三、夏期講習員の派遣と教育視察	六三
四、教職員	六三
五、卒業生及生徒數	六四
六、日本圖書館	六五
イ、評議員	六五
ロ、購入及寄附書籍雜誌	六五
ハ、四十四年中圖書借覽人員表	六八
七、白河河岸危險防禦工事	六九
八、大和街道修繕	六九
九、下水溝修繕	七〇
十、領事館敷地下水溝新設	七〇
十一、撒水ポンプの修繕	七〇
十二、道路修繕	七一
十三、道路の補修	七一
十四、旭街人道修繕	七二
十五、街樹の補植	七二

天津居留民團事務報告

(自明治四十四年一月至同年十二月)

一、庶務部

(一) 行政委員

昨年三月改選の行政委員は本年三月任期満了に付同月改選せらるる左に本年中に於ける議長、議長代理者、會計主任及行政委員を擧ぐ

議長	菊池季吉	四十三年五月就任、四十四年三月任期満了
議長代理者	高柳松一郎	四十四年五月就任、四十四年五月辭任
議長代理者	長峰與一	四十四年六月就任、四十四年五月辭任
會計主任	鈴木敬親	四十四年三月就任、四十四年三月任期満了
會計主任	福山義春	四十四年三月就任、四十四年三月任期満了
會計主任	成川容二郎	四十四年三月就任、四十四年三月辭任
會計主任	中山晋	四十四年四月就任、四十四年七月辭任
會計主任	豐岡保平	四十四年七月就任、

(二) 行政委員

行政委員	西村博	四十三年三月就任、四十四年三月任期満了
行政委員	西本茂吉	同上
行政委員	菊池季吉	同上
行政委員	太田万吉	同上
行政委員	豐岡保平	同上
行政委員	吉田房次郎	同上
行政委員	福山義春	同上
行政委員	鈴木敬親	同上
行政委員	小幡勇治	同上
行政委員	沖田介次郎	同上
行政委員	鈴木敬親	四十四年三月就任、
行政委員	豐岡保平	同上
行政委員	福山義春	同上
行政委員	中山晋	同上
行政委員	高柳松一郎	同上
行政委員	豐田鑑吉	同上
行政委員	成川容二郎	同上
行政委員	菊池季吉	同上

行政委員職務章程の規定に據り本年中委員の事務を分担せること左の如し

長峰與一	全上
行政委員の事務分担	
財務	鈴木敬親 四十三年十月より四十四年三月迄
財務	沖田介次郎 四十三年十月より四十四年三月迄
財務	福山義春 四十四年三月より
財務	中山晋 四十四年三月より四十四年五月迄
財務	成川容二郎 四十四年四月より
學務	西村博 四十三年三月より四十四年三月迄
學務	小幡勇治 四十三年十月より四十四年三月迄
學務	高柳松一郎 四十四年三月より
學務	豐岡保平 四十四年三月より四十四年四月迄
學務	鈴木敬親 四十四年四月より
土	太田万吉 四十三年三月より四十四年三月迄
土	豐岡保平 四十三年五月より四十四年三月迄
土	吉田房次郎 四十三年五月より四十四年三月迄

(三) 衛生

衛生	吉田房次郎	四十四年三月より
衛生	福山義春	四十三年十月より四十四年三月迄
衛生	長峰與一	四十四年三月より
衛生	菊池季吉	四十四年三月より四十四年六月迄
衛生	西本茂吉	四十三年三月より四十四年三月迄
衛生	鈴木敬親	四十三年五月より四十四年三月迄
衛生	豐岡保平	四十四年四月より
衛生	中山晋	四十四年六月より

本年中に於ける行政委員會議會数は二十一回、回覽決議九回、臨時決議一回、其議事件數百二十五件にして内再議一件、調査二件、委員附託七件、可決百零四件、否決一件、承認九件、延期一件なり其月日及件名左の如し

- 一、新年宴會開催の件 第一回 四十四年一月六日 可決
- 一、新年宴會開催の件 回覽決議 四十四年一月十二日 可決
- 一、消防手負傷手当支給の件 第二回 四十四年一月十六日 可決

(5)

- 一、電車進行方向變更に關する諮問案 可決
 - 一、消防器具置場希望地處分に關する諮問案 可決
 - 一、圖書館評議員囑託の件 可決
 - 一、民團吏員旅費規則中改正案 可決
 - 一、天津尋常高等小學校職員旅費規則中改正案 可決
 - 一、天津尋常高等小學校職員給與規則中改正案 可決
 - 一、四十四年度取得課金負担等級決定の件 可決
 - 一、四十四年度營業課金負担等級決定の件 可決
 - 一、四十二年度民團歳入出決算の件 承認
 - 一、四十四年度民團歳入出決算案 委員附託
 - 一、狂犬病豫防接種承認の件 承認
 - 一、天津尋常高等小學校教育事項研究會講師囑託の件 委員附託
 - 一、民團吏員囑託事務承認の件 承認
 - 一、防疫に關する件 承認
- 第三回 四十四年一月二十五日
- 一、取得課金規則中改正案 修正可決
 - 一、營業課金規則中改正案 修正可決
 - 一、雜種課金規則中改正案 修正可決
 - 一、碼頭規則中改正案 可決

(6)

- 一、日本圖書館規則中改正案 修正可決
 - 一、慈善基金規則中改正案 修正可決
 - 一、明治四十三年特別基金決算報告書 承認
 - 一、新規取得課金負担等級決定の件 修正可決
- 第四回 四十四年二月十日
- 一、臨時防疫費の件 可決
 - 一、臨時防疫委員補欠の件 可決
 - 一、四十三年度豫備費支出の件 可決
 - 一、四十四年度民團歳入出決算案 修正可決
 - 一、圖書館評議員選定の件 可決
 - 一、四十四年度臨時防疫費收支豫算編成に關する件 委員附託
- 第五回 四十四年二月十五日
- 一、臨時防疫費豫算案 可決
 - 一、臨時防疫班設置に關する回答の件 可決
 - 一、ベスト病豫防救治に従事する吏員手當支給の件 可決
 - 一、ベスト發生の場合臨機處分の件 可決
- 第六回 四十四年三月一日
- 一、明治四十四年度特別會計臨時防疫費歳入出豫算案 可決
 - 一、臨時防疫費特別附加金賦課徴收の件 可決

(7)

- 一、ベスト病感染死亡吏員及臨時備員手當の件 可決
 - 一、臨時財源調査會章程 修正可決
 - 一、天津尋常高等小學校教員招聘の件 可決
 - 一、天津尋常高等小學校教員招聘の件 可決
 - 一、天津尋常高等小學校臨時教員囑託の件 可決
 - 一、阪本技師報酬の件 可決
- 第七回 四十四年三月十三日
- 一、教員増俸の件 可決
 - 一、三輪井上、兩訓導休職の件 可決
 - 一、後任校長の件 可決
 - 一、三輪井上兩訓導に慰勞金給與の件 可決
 - 一、警備費國庫支辨に關する請願の件 可決
 - 一、課金負担に關する異議申出の件 決定の上再告
 - 一、防疫事務減少に關する件 可決
- 第八回 四十四年三月廿二日
- 一、共立學堂教員慰勞金給與の件 可決
 - 一、休職三輪訓導慰勞金増給の件 可決

(8)

- 臨時決議 四十四年三月廿三日
- 一、西村理事辭職願の件 可決
 - 一、西村理事慰勞金及功勞金給與の件 可決
 - 一、西村理事防疫事務特別手當給與の件 可決
- 第九回 四十四年三月廿四日
- 一、行政委員事務分担の件 可決
 - 一、防疫委員補欠選定の件 可決
 - 一、女教員採用に付再交渉の件 可決
- 第十回 四十四年四月一日
- 一、會計主任辭任の件 承認
 - 一、會計主任選舉の件 可決
 - 一、防疫に従事したるもの手當給與の件 可決
 - 一、安川前只會議長へ紀念品贈呈の件 可決
 - 一、防疫事務に盡力せられたる駐屯軍醫官へ謝意表彰の件 可決
 - 一、天津尋常高等小學校臨時教員囑託の件 可決
 - 一、行政委員事務分担變更の件 可決
 - 一、防疫器具置場築造の件 可決
- 回覽決議 四十四年四月十四日
- 一、新任小學校教員俸給支給の件 可決

本年中に於ける民團出納検査委員左の如し

山下竹三郎	四十三年三月就任、四十四年三月任期満了
長峰與一	全上
高柳松一郎	全上
山下竹三郎	四十三年三月重任、 四十三年三月就任、
鈴木藤藏	四十三年三月就任、
友成貞貞	全上

(五) 新規則及改正規則

本年中新に發布したる規則並に改正したる規則左の如し

日本圖書館規則中改正(四十四年一月廿八日發布)

日本圖書館規則中左の通り改正す

第七條 本館に評議員三名を置き行政委員會之れを囑託す評議員は本館管理

若と協議し書籍の購入其他本館に關する庶務を處理す

第八條 評議員の任期は滿一ヶ年とす

第九條 評議員は毎年一月前一ヶ年の事務の經過並に會計を行政委員會に報告すべし

第十條 削除 以下各條順次繰上く

第十一條 「評議員會の決議に依り」の十字を削る

(四) 慈善基金規則中改正(四十四年十一月廿八日發布)

慈善基金規則中左の通り改正す

第二條中「評議員會」を「行政委員會」と改む

第三條 慈善基金の支給を請はんとする者は事由を具して租界局に申出つべし

民團吏員旅費規則中左の通り改正す

第一條中「帝國及清韓兩國内」を「帝國及清國內」と改む

別表の區域を左の通り改む

帝國旅行

清國旅行

(ニ) 百斯篤病豫防救済に從事する吏員手當給與の件

(四十四年二月二十二日發布)

百斯篤病豫防救済に從事する民團吏員には其勤務の日數に應じ各給料の全額以内

の手當を給與することを得

但給與の金額及期間は行政委員會之れを定む

(ホ) 百斯篤病感染死じ吏員及臨時傭員手當の件

(四十四年三月三日發布)

百斯篤病豫防救済に從事したる民團吏員及臨時傭員にして該病に感染死じしたる

ときは左の祭葬料及遺族扶助料を支給す

一、祭葬料 五十弗以上二百弗迄

二、遺族扶助料 依給(加修及手當を含む)壹ヶ年分

(ハ) 天津尋常高等小學校職員旅費規則中改正

(明治四十四年三月廿四日發布)

天津尋常高等小學校職員旅費規則中左の通り改正す

區分 汽車賃 海船賃 馬車賃 宿泊料 日當

一哩に付 一海里に付 一里に付 一夜に付

帝國 校長(三) 四 錢 貳十錢 貳圓 壹圓

旅行 准訓導(二) 五厘 三 錢 十五錢 壹圓半錢 七十錢

清國 訓導(六) 五 仙 三十仙 四 弗 壹圓半仙

旅行 准訓導 五 仙 四 仙 二十五仙 參 弗 壹 弗

校長、訓導、銀壹百弗以内

准訓導 銀五十弗以内

(ト) 天津尋常高等小學校職員給與規則中改正

(四十四年三月廿四日發布)

天津尋常高等小學校職員給與規則中左の通り改正す

第五條中「備品並に雜品」の六字を削り左の但書を加ふ

但し職員には備品を貸與することあるべし

第六條中「備品並に雜品の給與を爲すの外」の十四字を削る

取得課金規則中左の通り改正す

取得課金規則中左の通り改正す

「取得課金規則」を「取得課金條例」と改む

第三條 取得課金は毎一年度を左の四期に分ち之れを徴收す

但第四條第一項但書の場合は月割を以て之れを徴收す

第一期 自四月 至六月 四月三十日限

第二期 自七月 至九月 七月三十日限

第三期 自十月 至十二月 十月三十日限

第四期 自一月 至三月 一月三十日限

第四條 取得課金負擔義務者は毎年十一月三十日迄に一ヶ年の取得高を租界

局に届出つべし但新に負擔義務の生したる者は一週間内に其月以後の取得

高を租界局に届出つべし

行政委員會は前項の届出を査定し届出を怠りたる者に對しては行政委員會

の認定に依り取得課金負擔額を決定す

(18)

第五條 其旨の下へ「租界局に」の四字を加ふ
 營業課金規則中左の通り改正す
 「營業課金規則」を「營業課金條例」と改む
 第三條 營業課金負担者は毎年十一月三十日迄に自己の次年度課金負担等級に付意見を租界局に申告すへし
 但し新に事務の生じたるものは一週間に其年度に於ける課金負担等級に付意見を租界局に申出へし
 雜種課金規則中左の通り改正す
 「雜種課金規則」を「雜種課金條例」と改む
 第一條中「料理店」の次へ「日本藝妓置屋」の一項を加ふ
 第二條中「料理店」の次へ左の一項を加ふ
 日本藝妓置屋
 藝妓一名に付 銀貳弗
 舞妓一名に付 銀壹弗
 第五條中「料理店」の次へ「日本藝妓置屋」の六字を加へ末尾「課金」の下に「租界局に」の四字を加ふ

碼頭規則中左の通り改正す
 「碼頭規則」を「碼頭條例」と改む
 第一條中「陸揚料を」の下に「租界局に」の四字を加ふ
 臨時財源調査會章程
 第一條 本民團に臨時財源調査會を設け其事務所を大日本租界局に置く
 第二條 本會は本民團の經營に關し必要なる財源を調査す
 第三條 本會に調査委員十名を置き其半數は行政委員中より其半數は居留民會議員中より行政委員に於て之れを選挙す
 第四條 本會に會長一名副會長一名を置き調査委員の互選を以て之を定む
 會長は本會を統理し副會長は會長事故あるとき之に代はる
 本會に於て調査したる事項は其都度會長より行政委員に報告す
 第五條 調査委員の任期は本會の事務開始に始まり調査事項の終了に因り満了す
 調査委員は悉て名譽職とす
 第六條 本會に書記一名を置き居留民團に於て支辨す
 第七條 本會の經費は居留民團に於て支辨す
 第八條 臨時防疫費特別附加金賦課徴收の件
 (四十四年三月廿八日發布)

(17)

臨時防疫費として明治四十四年度取得課金及營業課金負担者に左の通り特別附加金を賦課徴收す
 一、日本租界内の日本人 四十四年度負担額の二分の一以内
 二、日本租界外の日本人 四十四年度負担額の四分の一以内
 本附加徴收の時期方法及金額は行政委員に委任す
 (六) 消防に關する件
 本年中消防組の出火出傷は八件にして内三件は日本租界他の五件は租界外の消防應援なり其租界内出火一覽表左の如し

月 日	時間	場所	消防人員	巡捕人員	記事
二月十八日	自午前七時 至午前九時	旭 街 共立病院	十五名	四十六名	消防手一名
二月廿一日	自午前六時 至午前七時	壽 街 越本傳松	十名	二十名	傷
五月四日	自午前零時卅分 至午前二時	同仁俱樂部 口	十二名	二十三名	

又消防手にして出火出傷中負傷し傷疾手当を支給したるもの一名あり左の如し
 二月十八日輕傷(十日間休業)手当銀七弗五拾仙河野寅吉
 (七) 警備費國庫支辨に關する請願
 本年二月廿三日付を以て漢口居留民團行政委員會より警備費國庫支辨請願の件に付左の通り照會ありたり

(20)

(來信)
 拜啓時下春寒の御愈御清程之段奉慶賀僑僑從來當民團に於て居留地警察費(支那巡捕に關する經費)として年額銀叁千五百有餘元を負担し財政上甚た過重に感し居候のみならず英獨各民團の如く自ら居留地警察權を行使し得るならば免も角御承知の如く本邦國制ト海外にありて警察取締は單に領事の職權に屬し且本邦内地にありては地方警察費の如きも府縣費の負担に歸し市町村各單獨に負担するものにあらず候に付該警察費の全部は之を外務省海外在留民取締費用中より支出し可然も乎と愚考致候昨秋右意見を以て外務當局の内意を伺ひ候處一應其道理を認めらハ候も同様の事情を有する在清國の他 民團より未だ何等申出なきを以て獨り當民團の爲めに斯く取計難しとの事に有之候就ては右に對し貴民團の御高見如何に御座候哉何分の御回示を賜はり度奉希望候御同意に御座候はゞ更々御打合の上追て各自所轄總領事を経て外務當局に陳情し該意見採納方申請致度所存に有之候條併せて得貴意候 敬具
 明治四十四年二月廿三日
 漢口居留民團 行政委員會議長 角田 隆 郎
 天津居留民團 行政委員會議長 菊池 季 吉 殿

依て本行政委員會に於ては右請願に關し同意の旨回答し尙請願に對する手續上に付き

(19)

依て本行政委員會に於ては右請願に關し同意の旨回答し尙請願に對する手續上に付き

種々打合を爲し本年三月十六日付を以て當地總領事館を経て左記請願書を外務大臣宛に出せり

居留地警備費に關する請願書

本民團の警備費は明治四十年度(民國法施行當時に付七ヶ月)千五百四拾五弗零五仙、同四十一年度壹萬壹千八百八拾五弗九仙、同四十二年度九千七百貳拾七弗七拾四仙、同四十三年度(豫算)九千八百貳拾壹弗四拾仙を支出し此内數百弗の消防費を除くの外は悉く警察に屬する備支那巡捕の費用に要する者にも尙三倍の多きに居り其少額なるものに對しては二十倍以上の巨額に達し之が爲めに當民團事業の發展に影響を及ぼすこと甚だ少からざるを遺憾と致候當天津に於ける各國租界の現状を見るに孰れも居留地も皆警察權を自治体に有し居り候得共獨り我日本租界に於ては國制上警察取締は領事の職權に屬し従つて備支那巡捕の如きも全然警察署の管掌に屬せしめ其運用上就ては他の容喙を許さざる事と相成居候に付民團は只警察署の要求に應じて經費を支出するの責に任するに止まり之に向つて何等の權力をも有せざる者に御座候而して本邦に於て何等警察權を有せざる市町村は單獨に警察費を負担することなき現在の制度に考ふるも警察權を行使し得ざる居留地に於て警察に關する費用を支出するは當を得たるものにあらずと存せられ候に就ては本民團に於ても消防の如き或は特種警備に要する費用は勿論負担可致候得共警察上必要なる巡捕に關する費用は全部之れを海外在留民者取締費用中より御支辦被成下民團の負担を軽減して他の必要なる事業發展の資に轉用せしめられ候様致度懇請の至りに堪へ候

右行政委員會の決議を以て及請願候也
明治四十四年三月十六日

天津居留民團

行政委員會議長代理者 鈴木 敬 親

外務大臣伯備 小 村 壽 太 郎 殿

次て漢口居留民團より請願に係る警備費國庫支辨に關しては政府に於て右願意を聞届けられ愈々同年十月以降實施の事となりたる旨九月十九日同民團より通知ありたり

(八) 消防器具置場希望地處分に関する請願と警備台の移轉

居留地擴張區域中旭街福局街交叉点(田村洋行新築地)に當る三角形空地百二坪四合の地所は曾つて本民團に於て消防器具置場として借用を希望し已に其設計案を立てしことありしも經費其他の都合上建設するに至らざりしが本年一月十二日右地所處分に關し小總領事より左の通り諮問ありたるを以て行政委員會に於ては現下の情勢に鑑みるに消防器具置場として他に適當の地を擇み建設するの得策なるを認めたるに依り可然處分せられたる旨答申し又該地に建設しありたる警備台は家屋建設の爲め借地人より取除方申出たるに付警察署と協議の上同年四月二十八日際街神戶館前の空地へ移轉せり

消防器具置場希望地處分に関する件

(24)

の俸給は第六級以上とす)は教員採用に關し本民團財政上實施し能はざる場合往々發生し不便尠からざるに付該條削除の件本年六月八日總領事館へ申請し同月十日館令第四號を以て左の通り告示せらる

館令第五號天津居留民團立尋常高等小學校教員俸給支給規程第二條は之を削除す

附 則

本令は發布の日より之を施行す
明治四十四年六月十日

在 天 津

總領事代理 高橋 新 治

(一〇) 電車進行方向變更に關する諮問

本年一月十一日電車進行即ち右行を左行に變更の件に付左記寫を添へ總領事より行政委員會に諮問ありたり然るに本件に關しては昨年一月中已に租界局より電車公司向つて希望し置きたる事柄なれば全く我が希望に副ふたるものなるを以て速かに承認せられたる旨答申し電車公司向ては清歴一月一日より左行實施の筈なりしも清國官憲との交渉手間取りたる爲め豫定期日より遅れ本年二月六日より實施せり

天津千九百十一年一月九日

在天津日本總領事 小 幡 西 吉 殿

(23)

當專管居留地擴張區域中旭街福局街交叉点に當る三角形空地此地坪百貳坪四合の地所に對しては豫て其民團に於て消防器具置場建築相成度御希望の義は承知致居候得共爾來着手の運に至らず然る處居留地街頭殊に本街道に沿ふて空地を存するは市觀上將又居留地繁榮上最も懸念すべき義は申迄も無之且つ近く第九區空地も個人へ貸下を許可し本年四月より夫々家屋建築に着手致候様の運にも相成居候間一日も早く右空地にも相當建築物を建設し市街の連絡を完成するの急務を認め居候處今同當地在留者中自備商店家屋を建築致度目的を以て該地所貸下方願出有之就ては其民團に於て果して消防器具置場建築の計算有之本期民團會議へ豫算提出の上實施の見込相立居候得共都合に候得共從來の如く運々孰れとも決せざる様の場合に於ては不得次第に付居留地經營上此際右願出人へ該地所を貸下け消防器具置場は更に其時機に際し他に選擇する様致度其邊爲念及諮問候條本件至急行政委員會へ御討議の上何分の御回申相成度此段及照會候也

在 天 津

總領事 小 幡 西 吉

天津居留民團

行政委員會議長 菊池 季 吉 殿

(九) 領事館令改正に關する申請

去る明治四十一年七月三十一日發布の領事館令第十五號天津居留民團立天津尋常高等小學校教員俸給支給規程中第二條(小學校本科正教員たるを得べき資格を有する教員

と提携して少くも各租界内に有効なる通信機關を設立し得る如き方法を講ずるに至るやも計り難く候
下名は最後に本件は甚だ緊急を要することに有之當局は日々逼迫を受けつゝあるものなることを附言致度候本書に向ひ速に御回答を被下置候は幸慶至極に可存更に御回答中現状を改良するに如何なる方法を御採用相成るべきやの御意向を御洩し被下候は更に感銘可付候敬具

天津英國租界

行政委員會議長 W.A. モーリング

依て四月十五日付左の通り挨拶す

拜復本月十一日付を以て貴租界行政委員會議より電話業務上に關し清國電信電話總局宛御呈出相成候書信御付被下落手仕候

下名は貴行政委員會議の行動に對し至極同感に堪へざる次第に有之候右不取敢御回答旁感謝の意を表し候敬具

大日本租界局理事代理 田中 鑄太郎

英國工部局理事マクレンズ殿

(一) 臨時財源調査會委員

本年三月開會の通常民會に於て決議されたる臨時財源調査會は新行政委員會議に於て直に委員を撰定し調査に着手すべき筈なりしも行政委員會議長の變動其他の事由に依り自然延引し漸く六月廿三日開會の行政委員會議に於て調査會章程第三條の規定に基き行

(30)

政委員中より五名、民會議員中より五名の調査委員を撰定し次て七月一日第一回調査委員會議を開きて會長及副會長を選擧し同時に調査種目の設定並に委員の分担等を決議し其後更に會合の上調査進行上に就き種々審議する處ありしが結局各分擔委員に於て成案を建て提議するとし目下各分擔委員に於て夫々調査中なり其委員を擧れば左の如し

調査委員

行政委員

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

本年八月三十一日日本租界街七十八號田村多吉より居留地擴張區域中旭街と福島街の交叉点に當る三角形の地所(前記消防器具置場希望地)へ家屋新築中の成更に該地

(一三) 不用道路拂下許可

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

(32)

隔して參拜に多大の不便あり並に墓地の管理者を置かざる爲め四面茫々たる原野中の一區繞らすに荒草茫々たるに任せ風塵を防ぐに由なく死亡の遺體を祭つるには轉た慘烈の念を深く候此状態を以て放任するは抑も租界に對し忠實なるものと云ふべからざるのみならず死者の靈に對し施設不敬なる者も存候我租界には豫て共同墓地の用に設定せられたる地域有之其地は現在の居留地八家の櫛比する處とは隔絶し殊に共同葬所たる本願寺別院の建物之に連接致居候に付全寺院を以て墓地管理者たらしむれば墳墓の洒掃莊嚴をも永遠に保たれ得べく之を築造して我專管居留地の共同墓地と爲す事は實に急務中の急務と存候吾人は各國租界の整頓清酒なる墓地を見る毎に漸愧の念を深ふるものに有之該墳墓地の築造に就ては余り多大の經費をも要せざる事に付一日も速かに之を經營の着手有之に至るべき機御論議あらんとす只管切望するものに候此に設定區域地圖及築造設計豫算書を製し該議を速に御採用あらんとすを連署建議候也

天津居留民團

行政委員會議長

長 峯 與 一 殿

(一五) 感謝狀の贈呈

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

本年四月一日開會の行政委員會議の決議に基き當地駐屯軍醫官の居留地公衆衛生並に防

平林 儀 左 衛 門

外六十二名

(31)

所後方の地を買受け家屋増築せんとて右地所の中間を旭街より福島街に貫通せる道路(胡同)の一部長七尺幅四尺(坪數七坪八合)拂下方本民團へ願出たるに付附近地主の意圖並に交通上の關係等詳細取調たるに支障なく且つ永久道路として殘存し置くの必要なことを認り行政委員會議に於ては該地所を一坪に付銀貳拾貳圓に拂下ること決議し總領事の認可を経て九月十一日拂下を許可せり

(一四) 共同墓地築造に關する建議

本年十二月十八日付平林儀左衛門外六十二名の連署を以て共同墓地築造に關する建議書を本民團に提出したるに付行政委員會議に於ては右建議に對する審査方を豐簡會計主任及福山吉田の兩土木部担任委員に附託し目下調査中なり其建議書左の如し

日本專管居留地墓地築造建議

居留地を發展せしめ居留民を未住せしめんすには居留民に對し及ふべき便宜と安心とを與へざるべからざる事は今更喋々言を竣たざるべく候我日本專管居留地に於ける教育に衛生に治安に土木等に就ては已に夫々の機關設備有之も獨り人世の最終を托すべき墳墓に付ては租界に於て何等設備なきは頗る遺憾とする處に有之候最も居留民團創設以前租界外海光寺南に假定の墓地有之是迄居留民死亡者の幾部遺骨は同墓地に埋葬せられたる如きも其大部は土地の荒廢にして崇靈の意を失ふること、異日租界内に完全の墓地設定せらるることを豫期し其遺骨を本願寺別院に托し居るの状況に有之に現在の墓地は我駐屯軍の占領地と稱せらるる處にあり駐屯軍の厚意上暫設を許されたるものに有之其地域に限り殊に租界と遠

疫事務補助に對し謝意表彰の爲め同月二十日付を以て議長代理者より陸軍大臣宛左の通り感謝狀を贈呈せり

感謝狀

天津居留民團行政委員會議長代理者鈴木敬親謹啓

陸軍大臣伯爵寺内正毅閣下に謹辭を呈す
願はるる明治四十二年の秋天津居留地公衆衛生の衝に當りたる共立病院長山科醫學士の去るに際し我が居留地は醫事衛生の機關を失ひ百方苦心の折柄阿部駐屯軍司令官閣下の好意に依り軍病院長田村俊次氏並に在天津陸軍軍醫藥劑官の諸君をして公務の余暇無償にて共立病院の事業を補助せしむる事と相成り爾來居留民が醫事衛生の恩澤に浴する事深く感佩能はるる處本年一月中旬滿洲地方より百斯篤病侵入するに當り田村病院院長は司令官閣下の命に依り銳意率先して在天津官並に小山憲兵長等と相謀り我が居留地の防疫事務に従事せられ居留地内に一名の患者をも發生する事なくして終熄を告ぐるに至りしは偏に閣下の統督せらるる帝國陸軍の恩恵と奉存存依り居留民團を代表して茲に感謝の意を表し候敬具
明治四十四年四月二十日
天津居留民團
行政委員會議長代理者 鈴木敬親

陸軍大臣伯爵 寺内正毅 閣下
(一六) 銀盃贈呈

(34)

本年三月開會の通常民會に於て前民會議長安川雄之助氏へ紀念品贈呈の件を議決し其紀念品撰定方を新行政委員に一任せられたるに付同委員に於ては民會議長の名義を以て左記感謝狀を添へ銀盃一個を贈呈せり

感謝狀

貴下は去る明治四十一年七月臨時民會に於て民會議長に當選し爾來第二次及び第三次の兩期に涉り議場整理の重任を擔ひ常に公平至誠を以て其任に盡されたる功勞は本會の多とする所なり因て第四次民會の決議に依り茲に紀念として銀盃壹個を贈呈し深く感謝の意を表す
明治四十四年五月十二日
天津居留民團
民會議長 鈴木敬親

安川雄之助殿

(一七) 吏員の異動及現在員

民團吏員中本年三月理事西村虎太郎、同年十月書記滝見常造、同年十二月書記牧尚一の三名依願解職し同年十二月空閑實を備員に採用せり現在員左の如し
技師 (衛生) 福田三九三
技手 (土木) 赤山今朝治
書記 田中鑄太郎
書記 黒澤兼次郎

(33)

財務部

出納検査

本年中に於ける民團出納検査は左の如く都度租界局に於て行はれ出納検査委員全部(第三回より友成検査委員歸朝欠席)及議長、會計主任、理事(第二回より理事辭職欠席)出納關係書記悉く出席し總へて違法の出納及違算なきことを認めらる

- 第一回 四十三年十月より十二月迄、二月廿五日検査
出席検査委員 山下竹三郎、長峰與一、高柳松一郎、
- 第二回 四十四年一月より三月迄、五月十六日検査
出席検査委員 山下竹三郎、鈴木藤藏、友成貞、
- 第三回 四十四年四月より六月迄、七月二十六日検査
出席検査委員 山下竹三郎、鈴木藤藏、

(36)

第四回 出納期間

出納検査委員 山下竹三郎、鈴木藤藏、

(二) 天津尋常高等小學校職員旅費規則の改正

天津尋常高等小學校職員旅費規則中第一條「帝國及清韓兩國内」とありしを韓國併合の結果「帝國及清國內」と改め旅費支給表中民團吏員旅費規則との權衡を保たんと爲め校長及訓導並に訓導の派車汽船賃其他の支給額を民團吏員と同一額に改め更に支度料として校長及訓導に銀壹百兩以内を支給することとし又職員には從來備品並に雜品を給し來りし煩累多し相當の手當を支給するの便なるを認め之れを廢止し且備品に限り貸與することに改めたり

(三) 雜種課規則及取得課金營業課金規則の改正

現行雜種課金規則中料理店及藝妓は相當課金を賦課せらるれども其中間において相當收利を營みつゝある藝妓置屋には何等負擔の義務なく公平を得たるものにあらざるを以て之れを雜種課金規則中に規定し藝妓一名に付銀貳圓肆角一名に付銀壹圓肆角を賦課することとし又取得課金營業課金規則に於ては課金負擔義務者の一年間の取得高届出並に等級申告方を規定せるも年度の半途にして新に負擔義務の生じたる場合に於ける規定なきを以て之を補ふの必要上改正を爲し尙規則を條例と改め何れも本年三月開會の通常民會の決議を経て四月一日より之れを實施せり

(四) 臨時防疫費特別附加金賦課徴收に關する制定

本年三月開會の通常民會に於て臨時防疫費に充つる爲め四十四年度取得課金及營業課金負担者にして日本租界内に居住の本邦人には負担額の二分一以内、日本租界外の本邦人には負担額の四分の一以内の特別附加金を賦課徴収することとし其附加金徴収の時期方法及金額等は行政委員會に一任せり

(五) 慈善基金の支出

昨四十四年十二月催賑師宮岡天外一座を加はり來津せし寄附師千馬清子(原籍東京市小石川表區町百零九番地)は大外一座と共に日本租界曙街第十號に居住し居るに助賑尖に罹り爾來靜養中本年二月下旬座主天外は右罹病者を當地に殘留し興行の爲め北京に赴き其儘れへか逃走せるを以て治療費其他生計に苦み止むを得ず知巴安井小三郎に謀り直ちに歸朝せんとて同人の御里に向て旅費調達方請求中病室日を追ふて重症に傾きたるに依り安井小三郎の世話にて一時藤田醫院の治療を受け幸に快方に向ひしを以て歸朝の準備を爲し居るに病症再發し更に其立病院の診察を受けるに至りしが遂に歩行も出來ざる程の重症に陥り醫士よりは入院を勧告するも到底治療の資力なく且つ世話人たる安井小三郎に於ても同人に對し尠からざる費用を支辨し居たることなれば此上治療費等支辨するの餘力なしとて謝絶され詮方なく警察署を経て本民團の救助を仰ぎたき旨願出たるに付行政委員會に於ては關係者に就き事實取調の上入院料其他の費用等慈善基金より支出治療せしむることとし同年八月二十四日其立病院に入院治療せしめ輕快に赴きたるを以て本民團より旅費支辨の上郷里へ送還することとし夫々準備を爲し居るに偶々當地に興行中の落語家福圓事河合福三郎なるもの同

(38)

(37)

人の不過を憐み旅費其他一切の費用を支辨し同伴歸朝したき旨願出ても同行方希望せしに付右願意を容れ同月廿六日同伴歸朝せしめたり尙同人の入院料に就ては共立病院と交渉の上普通入院料の半額にて治療を受けしめたる結果入院料及藥價等全額銀四十八兩二十四仙を要したるに付何れも慈善基金より支出せり

(六) 四十三年度豫備費支出

租界内一般用水の需要増加したるに公園噴水に使用したる水量の爲め四十三年度水道費に不足を生したるを以て二月十三日左の通り四十三年度豫備費支出の申請をなし即日認可を受く

一 銀壹千貳百弗也	水道費補充額
内	
銀壹千貳百弗也	水
銀壹百貳拾五弗也	代
銀九拾弗也	公園費補充額
銀參拾五弗也	俸
銀參拾五弗也	電
銀參拾五弗也	燈
銀參拾五弗也	給
銀參拾五弗也	費
銀參拾五弗也	豫備費支出總額
銀參拾五弗也	計銀壹千參百貳拾五弗也

又同年二月より租界内一般河水汲取り方禁止せられたる結果用水の需要額に増加し更に水道費に不足を生したるを以て四月二十一日左の通り四十三年度豫備費支出の認可を受く

(40)

(39)

一 銀參百弗也
 内
 銀參百弗也
 計銀參百弗也

(七) 電車会社の配當金と營業人力車鑑札料不足額の受領

電車布設契約に依り日本租界が電車公司より受領すべき本年中の配當金は一千一百五十七兩六十仙なりしも昨四十四年十一月より本年十月迄一ヶ年間の營業人力車鑑札料補足額九千六百九十六兩にして斯く補足金額が配當金より多額なりしを以て別に配當金の支拂を受けず其配當金に關する計算に就き電車公司よりの來信左の如し

(八) 臨時防疫費支出と國庫補助金の下付

昨四十四年十二月末滿洲地方に於て百斯篤病流行し病勢漸次南下し遂に本年一月中旬當地にも該患者發生するに至るや各國居留地は何れも銳意之れか豫防に努め我居留地に於ても亦臨時防疫委員會を組織し之れが豫防法を講ずることとなりしを以て本民團に於ては不取敢四十三年度剩餘金及準備基金の一部を以て特別會計とし臨時防疫費六千兩を計上し應急防疫手段を執りたるに同年三月下旬終熄を告ぐるに至り此期間防疫費として銀六千三百餘兩を支出するに至りたるも幸ひ小幡總領事の盡力により國庫より防疫費として銀三千兩を補助せられ外に本民團より總領事館を経て外務省へ電請の上送付せられたる百斯篤血清代金も便宜國庫より補助せらるることとなり其他東京建物會社支店よりの寄付金並に百斯篤豫防液代等の臨時收入あり結局本民團よりは四十三年度剩餘金及準備基金等計銀貳千八百九十兩十四仙を支出するに至れり其臨時防疫費決算并に内譯表を呈すれば左の如し

一 銀參千壹百八拾貳拾八兩八厘也	國庫補助金
一 銀貳百五十兩也	防疫寄附金
一 銀六拾九兩九拾參仙也	ベスト豫防液代
一 銀貳千七百九拾貳兩七拾七仙也	四十三年度民團剩餘金
一 銀九拾七兩八拾七仙也	民團準備基金

明治四十三年度特別會計臨時防疫費歳入出決算

(42)		(41)	
計銀六千參百九拾弗八拾五仙八厘也		計銀六千參百九拾弗八拾五仙八厘也	
臨時防疫費總額		臨時防疫費總額	
明治四十三年度特別會計臨時防疫費歲出決算内譯表			
科	目	決算額	備考
一、給料及手當	臨時備人給料	一、七五四、〇七	備人七名に對する給料
	手當	五八、〇〇	吏員、備員特別手當並に豫備員手當
二、巡捕給料	巡捕給料	七五六、〇四	臨時備入巡捕十六人
	雜費	二五三、九五	使丁、車夫、苦力給料並に清潔法施行用苦力賃
三、備品費	器	一、六六〇、八七	椅子、卓子、暖爐、烟突、風呂桶、戸棚其他雜品
	巡補被服	三三二、二一	臨時備入巡捕十六人に對する冬服、外套、靴、帽子等
	避病具	五九〇、五五	避病衣袴、頭巾、皮手袋、護謨手袋、眼鏡、呼吸器、長靴、
四、消毒具	消毒具	二四〇、三五	噴霧器、吸入器、運搬車、護謨管其他
	患者用具	六、二五	擔架、寢台、瀉灌團、病衣、瀉團
	文房用具	二〇〇、五〇	謄寫版、紙綴器、硯箱等
五、藥品費	藥品費	一九、四一	石炭酸、昇汞、フォルマリン、ヂン、硫黃、リゾール等
六、豫防液并血精	豫防液并血精	一、〇二九、四九	豫防液三五〇壺、血精五〇壺代
七、捕鼠用品	捕鼠用品	七三六、〇八	亞砒酸、強利殺林等
八、捕鼠器	捕鼠器	一一九、二〇	鐵線製捕鼠器百五十個
九、雜品	雜品	四九、五〇	團子調製用蕎麥粉、麥粉、胡麻油等成形品
十、家屋修築費	家屋修築費	一一、〇一四、一七	病理試驗室一棟、鼠燒場一ヶ所、傳染病室周圍亞鉛板圍
十一、建築料	建築料	七二九、八五	傳染病室内部ペンキ塗替及修繕、事務所、消毒所、防疫班内部修繕、防疫器具格納庫
十二、修繕料	修繕料	二八四、三二	

(44)		(43)	
計		計	
六、借家料	借家料	二二四、一三	事務所、消毒所、防疫班ノ三棟
七、點燈費	點燈費	一一七、五〇	防疫班、消毒所引込線及電球、事務所電球代
八、印刷廣告料	印刷廣告料	四三、三八	事務所、防疫班、消毒所電燈料
九、電報料	電報料	三三、一九	諭告、豫防心得、捕鼠ノ注意、通行券
十、電話料	電話料	二二、〇〇	血精、豫防液請求督促ノ爲メ傳染病研究所へ歐和電報
十一、郵便切手料	郵便切手料	四二、〇四	爲替、書留料並ニ租界外居住者へ通知用切手
十二、消耗品費	消耗品費	一五、九九	事務所、防疫班ノ二個
十三、豫防消毒用消耗品	豫防消毒用消耗品	五、〇四	筆紙墨印肉類
		二六六、七四	石油罐、白木綿、紅木綿、護謨管修繕用テープ名刺用紙其他
		六六、六三	
		三三、七〇	
一、薪炭費	薪炭費	九八、五〇	酒精、依約兒、絆創膏、綿花等
二、雜費	雜費	七八、〇七	タオル、石鹼、手帳、金巾、アンペラ、雜巾、茶、マツチ等
		七八、〇七	石炭、木炭、煤球兒、麻桿
		六、三九〇、八五	乘車賃、飲料水、汚物掃除、新聞、烟突掃除、靴拭箱、委員徽章、地圖等
計	計	六、三九〇、八五	
本年十二月末に於ける本民團取得課金、營業課金、營業課金及雜種課金負擔者左表の如し			
(九) 取得、營業、雜種課金負擔者數			
(イ) 取得課金負擔者表 (四十四年十二月末調)			
金額	日本人	清國人	計
五十六弗	一		一
四十弗	四		四
三十二弗	一〇		一〇
二十四弗	一三		一三
十六弗	一二		一二
十二弗	一八		一八

(50)

(49)

科 目	經 常 出 入		比 較 增 減
	本年預算額	前年度預算額	
第一款 事務所費	一二,九六四,六五	一二,六八二,六〇	二八二,〇五
一、俸給	九,三九八,〇〇	八,五五四,二〇	八四三,八〇
二、備品費	九,九四五	一七五,二〇	七五,七五
三、消耗品費	三三〇,六〇	五〇一,六〇	一七一,〇〇
四、修繕費	八六,〇〇	八〇,〇〇	六,〇〇
五、印刷費	二八二,〇〇	二八〇,〇〇	二,〇〇
六、通信費	六〇,〇〇	九六,〇〇	三六,〇〇
七、公告費	二四〇,〇〇	二四〇,〇〇	〇
八、旅費	五〇,〇〇	二八〇,〇〇	二三〇,〇〇
九、家屋借料費	二,一九六,〇〇	二,一九六,〇〇	〇
一〇、雜費	二二二,六〇	二七九,六〇	五七,〇〇
第二款 會議費	一二七,〇〇	二〇〇,〇〇	七三,〇〇
一、俸給	五〇,〇〇	五〇,〇〇	〇
二、印刷費	六〇,〇〇	一〇〇,〇〇	四〇,〇〇
合計	七〇,〇一五,五三	六八,三三三,五六	一,七九一,九七

(52)

(51)

科 目	經 常 出 入		比 較 增 減
	本年預算額	前年度預算額	
第三款 土 木	一八,〇二四,一七	一八,三六七,八〇	三三,〇〇
一、修繕費	一,〇一二,〇〇	一,〇一四,〇〇	二,〇〇
二、消耗品費	一,〇五八,一二	一,一七四,〇〇	一一五,八八
三、器具費	八四,〇〇	一六三,五〇	七九,五〇
四、修道費	九,一八八,一六	八,九三九,六六	二四八,五〇
五、撤水費	二,七九六,七三	二,九〇〇,〇〇	一〇三,二七
六、點燈費	三,五七二,一六	三,四一六,六四	一五五,五二
七、植樹頭費	二六二,一七	四六〇,〇〇	一九七,八三
八、碼費	一〇,〇〇	一〇,〇〇	〇
九、雜費	四〇,八三	二〇〇,〇〇	一五九,一七
第四款 水 道	七,六六三,六〇	七,〇三九,五〇	六二四,一〇
一、修繕費	三二四,〇〇	三二四,〇〇	〇
二、修繕費	三二四,〇〇	三二四,〇〇	〇
三、器具費	四四,四〇	四四,四〇	〇
四、水費	七,二三四,五〇	六,六〇〇,〇〇	六三四,五〇
五、雜費	二九,七〇	四七,一〇	一七,四〇
第五款 教 育	八,六七五,三二	九,四〇四,一七	七二八,八五
一、俸給	二,四六一,四四	二,七五〇,九八	二八九,五四
二、修繕費	二,二三四,五〇	二,二三四,五〇	〇
三、器具費	四四,四〇	四四,四〇	〇
四、水費	七,二三四,五〇	六,六〇〇,〇〇	六三四,五〇
五、雜費	二九,七〇	四七,一〇	一七,四〇
第六款 衛生	一,九五三,〇〇	二,〇六四,〇〇	一一一,〇〇
一、補助費	一,二〇〇,〇〇	一,八六〇,〇〇	六六〇,〇〇
二、被服費	二,六七〇,二五	五,〇六八,〇〇	二,三九七,七五
三、消耗品費	二六二,五〇	四,〇一七,〇〇	三,七五四,五〇
合計	一七,〇〇〇,〇〇	一八,〇二四,一七	一,〇二四,一七

(54)

(53)

第八款 圖書館費		第九款 諸稅及負擔		第十款 公園		第十一款 雜支		第十二款 雜支	
一、俸給	四五〇、三一	一、萬國橋修繕費	三六、八四	一、俸給	一、九五六、八四	一、雜支	八〇、〇〇	一、雜支	四四〇、〇〇
二、備用品費	一三〇、〇〇	二、地租	一〇〇、〇〇	二、肥料	一〇八二、〇〇	二、雜支	一六五、〇〇	二、雜支	一〇〇、〇〇
三、圖書費	三〇〇、〇〇	三、植樹	三六、八四	三、器具	二二〇、〇〇	三、雜支	一六〇、〇〇	三、雜支	一〇〇、〇〇
四、保險費	八、八一	四、肥料	一、九五六、八四	四、器具	九、五〇	四、雜支	一六〇、〇〇	四、雜支	一〇〇、〇〇
五、雜費	一、五〇	五、肥料	一〇八二、〇〇	五、器具	二六、七〇	五、雜支	一六〇、〇〇	五、雜支	一〇〇、〇〇
六、巡捕藥費	一、五〇	六、肥料	二二〇、〇〇	六、器具	四〇、〇〇	六、雜支	一六〇、〇〇	六、雜支	一〇〇、〇〇
七、巡捕藥費	一、五〇	七、肥料	二二〇、〇〇	七、器具	一八三、六四	七、雜支	一六〇、〇〇	七、雜支	一〇〇、〇〇
八、巡捕藥費	一、五〇	八、肥料	二二〇、〇〇	八、器具	一七六、六四	八、雜支	一六〇、〇〇	八、雜支	一〇〇、〇〇
九、巡捕藥費	一、五〇	九、肥料	二二〇、〇〇	九、器具	一七六、六四	九、雜支	一六〇、〇〇	九、雜支	一〇〇、〇〇
十、巡捕藥費	一、五〇	十、肥料	二二〇、〇〇	十、器具	一七六、六四	十、雜支	一六〇、〇〇	十、雜支	一〇〇、〇〇
十一、巡捕藥費	一、五〇	十一、肥料	二二〇、〇〇	十一、器具	一七六、六四	十一、雜支	一六〇、〇〇	十一、雜支	一〇〇、〇〇
十二、巡捕藥費	一、五〇	十二、肥料	二二〇、〇〇	十二、器具	一七六、六四	十二、雜支	一六〇、〇〇	十二、雜支	一〇〇、〇〇

(56)

(55)

慈善基金預金		大和公園基金預金		仙波少將紀念教育基金預金		教育寄付金預金		現金	
種目	坪數	種目	坪數	種目	坪數	種目	坪數	種目	坪數
天津小學校校舍及宿舍	二二七、八一	天津小學校校舍	五、七三九、三一	天津小學校校舍	一、六七四、三二	天津小學校校舍	五、九八、四〇	天津小學校校舍	八、〇一二、〇三
同校門及屏其他附屬建物	一六、五七七、八一	天津小學校校舍	一、三七二、六一五	天津小學校校舍	一、八〇〇、〇〇〇	天津小學校校舍	六、〇三六、二二〇	天津小學校校舍	六、〇三六、二二〇
總計	三、三三五、一五	總計	三、三三五、一五	總計	三、三三五、一五	總計	三、三三五、一五	總計	三、三三五、一五

種目		種類	員數	價格
同校屋內	傳染病室	附屬舍	四五、〇〇〇	二、一五五、〇〇〇
消防器具	置場		一七、〇六〇	三五七、〇〇〇
スチームローラー	置場		一五、〇〇〇	六八〇、〇〇九
大和公園門塙及附屬建物			八、九五〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇
伊集院紀念音榮堂			三、〇九二、八六〇	五、七三五、〇〇〇
傳染病室病理研究所			三七、〇〇〇	三、〇九二、八六〇
事務所物品格納庫			三五七、七〇〇	三七、〇〇〇
汚水棄却場			四五、〇八三、一四〇	五二、〇〇〇
口徑六吋鐵管	延長		四、三〇〇、〇〇〇	三五七、七〇〇
同經四吋鐵管			四、八〇五、〇〇〇	四五、〇八三、一四〇
合計			九、一〇五、〇〇〇	七、四四八、四一〇
合計			一、四一九	五、七一四、八二〇
合計			一、〇、二二六	一三、一六三、一三三

種目	種類	員數	價格
事務所備品		七五	一、八六九、三六
會議室備品		一八	三七三、一七
土木器具		三五	一四、六五八、八二
水道器具		五	一、五六七、七三
小學校備品		一、〇三〇	四、六八四、二三
衛生器具		一六	四七五、八〇
巡捕貸與品		一六	二、一〇、八五
巡捕備品		二二	二、三三、二〇
消防備品		二四	六、二八五、三九
傳染病室備品		二二	二、一九九、六九
圖書館備品		二一	二、五四三、三六
同備品		四	三〇八、一〇
碼頭器具		一	一七一、〇〇
公園器具		三五	一、五八五、三四
合計		一、四一九	三九、〇六五、〇三

總計銀拾壹萬四千壹百四拾四圓五拾九仙
 (一) 天津尋常高等小學校
 民團財產

品名	冊數	品名	冊數
法學通論	一	東洋倫理學	一
日本教育史	一	教育ノ力	一
東洋教育史	一	明治教育思想史	一
通俗病的兒童心理學講話	一	大清帝國分省精圖	一
續帝國大地誌韓國南滿州	一	世界地理提要	一
朝鮮支那地名辭彙	一	諺語大辭典	一
國語科教授要義	一	算術科教授要義	一
日本開闢史	一	日本史蹟	一
皇室及皇族	一	大日本百科辭典	四
增訂草木圖說	一	支那人名辭典	一
新編動物化學	一	新細菌學	一
氣候及土壤論	一	農業氣象	一
續日本千蟲圖解	一	日用化學講義	一
教室適用帝國大地圖	一	教授用世界地圖	一
西洋全史	一		
品目	數	品目	數
器械及標本	一	滲透器	一
氣壓計用硝子管台付	一		

本年紀念少年文庫に備付けたる書籍左の如し	冊數	本年紀念少年文庫に備付けたる書籍左の如し	冊數
幼年畫報	十六冊	少年界	十三冊
少女世界	十六冊	少女界	十三冊
實業少年	十四冊	幼年の友	十二冊
少年世界	十六冊	少女の友	十四冊
瀛海流船旅行案内	十二冊	日本少年	十四冊
新少年	十二冊	少年世界福引號	一冊
新洋行土産	一冊	明治の卷	一冊
兄の書翰	一冊	飛行の馬	一冊
アングラーセンか伽集	一冊	少年日本歴史ナイチンゲール	一冊
イソップ新譯	一冊	少年諸子	一冊
世界名作おとぎ噺	一冊	少年少女	一冊
計	七十二冊		

本年中仙波少將紀念教育基金を以て購入せし圖書器械及標本等左の如し
 (ロ) 仙波少將紀念圖書、器械、標本

(61)

毛管現象試験器	二台	振動傳達試験器	電鈴
最高抵寒暖計	二台	八百倍レンズ	護謨栓
ライヘルト顯微鏡	二台	護謨管	匙子
空氣銃	二台	護謨管狹	ヒツベツト刻度附
乳鉢捧付	二台	エルレンアイヤ氏フラスコ	細口瓶
坩堝狹	二台	高津氏瓦斯發生器	手籠
ビエーレット狹浮子附	二台	燧石	碧玉
湯煎鍋	二台	黒雲母	燧石
ビーカー	二台	燧石	燧石
玻璃製鐘活栓付	二台	燧石	燧石
白金線	二台	燧石	燧石
三脚	二台	燧石	燧石
長石ノ結晶	二台	燧石	燧石
王隨	二台	燧石	燧石
黃鉄鑛の結晶	二台	燧石	燧石
方解石結晶	二台	燧石	燧石
化石(植物)	二台	燧石	燧石
閃亜鉛鑛	二台	燧石	燧石
赤銅鑛	二台	燧石	燧石

(62)

輝銀鑛	一組	砂金	一組
著鉛	一組	セメントノ製法順序標本	一組
銅の製練法順序標本	一組	珊瑚(紅白)	一組
インキンチャク標本	一組	木工器具(箱入)	一(揃)
手工用粘工窯	一組		

(ハ) 小學校職員研究會

本年中教育事項研究會規則に據り商業科法律科倫理及教育科の三科目に就き研究會を開會する旨なりしも講師囑託上差支を生し遂に開會すること能はざりしが職員に於ける研究會としては左の通り授業術研究會二回及研究報告會一回開會せり

授業術研究會(一) 一月十八日 尋常一年級方教授 井上女訓導

授業術研究會(二) 二月十四日 尋常六年級方教授 松田 訓導

研究報告會 十二月十九日 綴方教授法に就て報告 井上 訓導

(ニ) 諸 會

本年中父兄會、學藝會、運動會を開くこと左の如し

父兄會(壹) 五月二十八日

學藝會(三) 五月二十七日

運動會(五) 五月二十五日

運動會(十) 五月十七日

(63)

(ホ) 夏期講習員の派遣と教育視察

本年八月一日より同廿一日迄三週間愛知縣名古屋市古屋商業學校内に於て商業通論及簿記科に就き夏期講習會開會の旨文部省より告示ありたるに依り行政委員會に於ては當天津尋常高等小學校訓導井上米二を請假歸朝の序を以て右講習會へ派遣するとに決し同年六月二十六日總領事館を経て文部省へ入會方出願翌七月十一日入會許可せられたるに付直ちに同校へ派遣し規定科目の講習を終へ尙文部省より講習終了の證明書を得て八月二十九日歸任せり又訓導兼校長鈴木傳一郎には七月四日夏期休暇を利用して自費を以て南滿地方教育視察の爲め同地に出張大連、旅順、撫順、奉天等の各地を経て同月二十六日歸任せり

(ヘ) 教 職 員

本年三月十八日訓導兼校長三輪辰次郎訓導井上米二の兩名休職を命せられ同日訓導鈴木傳一郎訓導兼校長に任せられ次で四月十三日松田家守、六月十日津村梅、九月二十四日田川寅之助の三名訓導に任せられ又初学期に於て教員欠員の爲め授業上差支を生したるに依り四月三日豊岡梅子に教員を囑託し其後夫々教員着任せるを以て七月三十日限り解任せり

現在職員左の如し

訓導兼校長 鈴木傳一郎

愛知縣師範學校卒業生

(64)

訓 導 田川寅之助

訓 導 井上米二

訓 導 正村幸吉

訓 導 山口縣師範學校卒業生

訓 導 松田家守

訓 導 愛知縣師範學校卒業生

訓 導 村梅

訓 導 福岡縣女子師範學校卒業生

訓 導 裁縫女禮式囑託教員 田 添

(ト) 卒業生及生徒數

本年三月十八日日本校第七回卒業證書授與式を行ひ高等科卒業生一名尋常科卒業生十四名を出せり又本年中に於ける入退學生生徒數は入學生五十二名退學生四十名(内一名は高等科卒業退學者)にして現在生徒數百十七名(前年末に比し八名増加)なり其級別左の如し

○ 尋 常 科 (百〇四名)

一學年(男)九 二學年(男)一五 三學年(男)四

一學年(女)一三 二學年(女)一四 三學年(女)九

<p>日本百科大辭典 一冊</p> <p>新進化論 一冊</p> <p>衛生行政法釋義 一冊</p> <p>維新前史櫻田義舉錄 三冊</p> <p>蒙古旅行 一冊</p> <p>親鸞上人傳 一冊</p> <p>禪宗聖典 一冊</p> <p>モウパッサン集 一冊</p> <p>眞宗聖典 一冊</p> <p>重寶經濟日本百科全書 一冊</p> <p>維新志士正氣集 一冊</p> <p>漢籍國字解全書 廿一冊</p> <p>以上二十七種 五十五冊</p> <p>○購入雜誌</p> <p>武德會誌 十二冊</p> <p>東洋經濟新報 三十六冊</p> <p>日本及日本人 二十四冊</p> <p>女學世界 十六冊</p> <p>文章世界 十六冊</p>	<p>憲法提要 二冊</p> <p>明治商工史 一冊</p> <p>此一戰 一冊</p> <p>日本海上史論 一冊</p> <p>韓國の併合と國史 一冊</p> <p>淨土宗聖典 一冊</p> <p>釋迦牟尼傳 一冊</p> <p>家庭の趣味 一冊</p> <p>大久保利通傳下 一冊</p> <p>西南傳記 二冊</p> <p>センチュリー字典補遺 二冊</p>	<p>四學年〔男八 女五〕 五學年〔男八 女九〕 六學年〔男四 女六〕</p> <p>○高等科 (十三名)</p> <p>一學年〔男五 女七〕 二學年〔男一 女一〕</p> <p>(二) 日本圖書館評議員</p> <p>(イ) 評議員</p> <p>從來圖書館規則第七條に據り評議員二十名を囑託し更に評議員中より三名の常設委員を互選し本館に關する庶務を處理し來りたるも多數評議員の囑託上困難を感ずる場合を以て本年一月二十八日日本館規則を改正し評議員三名を置き行政委員會之れを囑託し本館に關する庶務を處理することとなりたるを以て同年二月十三日左記三名へ評議員を囑託せり</p> <p>小幡 勇 治 牧野 田 彦 松 鈴木 傳 一 郎</p> <p>(ロ) 購入及寄附書籍雜誌</p> <p>本年中購入及寄附の書籍雜誌左の如し</p> <p>經濟大辭書 二冊</p> <p>法律大辭書 二冊</p> <p>哲學大辭書 二冊</p> <p>工業大辭書 一冊</p>
---	--	---

<p>十九 月次</p> <p>十八 月次</p> <p>十七 月次</p> <p>十六 月次</p> <p>十五 月次</p> <p>十四 月次</p> <p>十三 月次</p> <p>十二 月次</p> <p>十一 月次</p> <p>十 月次</p> <p>九 月次</p> <p>八 月次</p> <p>七 月次</p> <p>六 月次</p> <p>五 月次</p> <p>四 月次</p> <p>三 月次</p> <p>二 月次</p> <p>一 月次</p>	<p>外務省 通商彙纂 七十五冊</p> <p>野口清 武士道日本 二冊</p> <p>同文館 實業界 十五冊</p> <p>求道發行所 求道 五冊</p> <p>天津俳樂部 鳴 三冊</p> <p>以上五種 一百冊</p> <p>(ハ) 四十四年中圖書借覽人員表</p> <p>館内 館外</p> <p>一九三〇 一八</p> <p>一九一九 二五</p> <p>一九三二 二五</p> <p>一九四五 二四</p> <p>一九四二 二四</p> <p>一九四六 一四</p> <p>一九四二 一八</p> <p>一九三六 一四</p> <p>一九三七 二〇</p> <p>一九一九 七</p> <p>計 四八</p> <p>四一</p> <p>四一</p> <p>五七</p> <p>六九</p> <p>六〇</p> <p>六〇</p> <p>七七</p> <p>七七</p> <p>五七</p> <p>二六</p>	<p>大陽 十六冊</p> <p>文藝俱樂部 十六冊</p> <p>早稻田文學 十二冊</p> <p>法學協會雜誌 十二冊</p> <p>婦人世界 十四冊</p> <p>倫理講演集 十二冊</p> <p>理學界 十二冊</p> <p>中央公論 十二冊</p> <p>ワイドウールド 十一冊</p> <p>以上二十七種 五百〇二冊</p> <p>○寄付書籍</p> <p>外務省 移民調査報告書 四冊</p> <p>天津總領事館 英文日本號 一冊</p> <p>松本君平 清國時文革瀛寶典 一冊</p> <p>中村常三郎 報告記 一冊</p> <p>以上四種 七冊</p> <p>○寄付雜誌</p> <p>成功 十一冊</p> <p>實業之日本 廿六冊</p> <p>國家學會雜誌 十二冊</p> <p>精神界 十一冊</p> <p>法律新聞 七十四冊</p> <p>教育界 十二冊</p> <p>新人 十一冊</p> <p>外交時報 十四冊</p>
--	--	--

十一月	一九	一一	三〇
十二月	二九	三一	六〇
計	四〇〇	二二九	六二九

四、土木部

(一) 白河々岸危険防禦工事

昨年十二月中白河々岸危険防禦の爲め武甯洋行前より三井洋行角迄長さ百間の木柵工事を施すことに決定したるも時偶々嚴寒の候に向ひ工事至難なるを以て之を中止し愈々本年三月該工事に着手することとし之を公入札に付したるに最低額銀壹百五十九弗五拾仙にて村津市之助に落札せしを以て同人へ右工事を請負はしめ同月十七日より工事に着手し翌四月十五日竣成せり

(二) 大和街道路修繕

日清共同負担に係る大和街道路は久しく修繕を加へざりし爲め破損甚しく交通上不便尠からざるに依り右修繕方總領事館を経て清國官憲に交渉の結果愈々本年五月四日天津工程總局より破損箇所檢分の爲め係員を派遣せられ又本民團より土木部担任委員及吏員立會の上修繕區域並に修繕の方法等を協定し翌五日彼我工事豫算書を提供して之れを比較するに本民團豫算額銀一千八百五十五弗三十五仙に對し工程總局提出の豫算額銀壹千七百五十五弗七十六仙にして約壹百弗の低價なりしを以て結局本工事は同局に於て引受くる事となり同月二十三日より工事に着手し六月十二日竣成したるに付本

(70)

(69)

民團より右工費の一半銀八百七十七弗八十八仙を同局へ支拂ひたり

(三) 下水溝修繕

宮島街三毛洋行及澤洋行兩側並に巴昔洋行より芝廬家前迄片側下水溝延長四百尺修繕工事は銀七十九弗にて清國人邵寶生に請負方を命し本年四月十三日より修繕に着手し五月六日竣成せり又福島街下水溝南側(旭街角より榮街迄)延長二百六十尺及北側(旭街角より舊井上病院角迄)延長八百尺修繕工事は銀一百九十弗にて清國人孫聯元に請負はしめ同年六月五日より修繕に着手したるも西本藥房及田村洋行等家屋建築の爲め工事遅延し九月四日漸く竣成せり

(四) 館事館敷地下水溝新設

本年六月五日總領事館より同館建設敷地内へ監倉及外圍煉瓦塼築造の爲め右敷地に沿ひ下水溝新設方依頼ありたるを以て行政委員會に於ては差當り宮島街に面せし部分丈け築造することに決し右工費銀三百八十二弗にて三谷爲吉に請負はしめ同館外圍煉瓦塼と共に九月十四日竣成せり

(五) 撤水ポンプの修繕

撤水用水揚ポンプ「アーメチユア」は昨年未屢々破損を生じ撤水上部からざる影響を蒙りたるに付同年十一月瑞記洋行に託し上海に送りて修繕を加へつゝありしが本年三月到着したるに依り同行技師立會の上試運轉を行ひしに再び破損を生じ使用に堪へざるに至れるを以て更に修繕を加ふる事とし其間蒸氣ポンプを使用して撤水し居たるに同年六月豫備の「アーメチユア」到着し直に取付け試運轉を行ひしに成績頗る良好に

して漸く使用するに至れり

(六) 道路修繕

本年六月廿三日開會の行政委員會に於て土木部担任委員の提案に基き旭街道路全部及壽街道路一部(秋山街角より福島街迄)并に開口道路全部の大修繕を行ふ事に決し之れを公入札に付したるに最低額銀六千壹百拾七弗五拾仙にて清國人孫聯元に落札せるを以て同人に請負方を命し竣工期間は旭街九十日壽街四十日開口二十五日の豫定にて「ステアムローラー」三台を貸與し八月廿一日開口道路修繕に着手し翌九月六日竣成、壽街道路修繕は九月十四日より着手し翌十月十五日竣成し又旭街道路は八月四日より修繕に着手し本年十月中旬清國動亂の爲め一時激車不通となり修繕用材料の輸送杜絶せられ工事進捗上からざる打撃を蒙り遂に豫定期内に竣工する能はざりしが漸く十二月二十一日全部竣成を告ぐるに至れり其各街修繕費を擧ぐれば左の如し

- 一銀四千一百八十八弗五十仙也 旭街修繕費
- 一銀一千四百五十九弗也 壽街修繕費
- 一銀四百七十弗也 開口修繕費
- 計銀六千一百七十七弗五十仙也

(七) 道路の補修

租界内各道路の修繕は氣候の關係上其期を早め本年三月十三日より工事を開始し壽街(福島街以北全部)福島街(山口街より海光寺兵營迄全部)旭街(福島街以北全部)秋山街福島街、宮島街の各道路及旭街より壽街に通ずる新開道路の補修修繕に從事し就中破

(72)

(71)

壞力最も強大なる山口街には例年の如く三月及八月の二回修繕を加へ向本年中華街道の修繕に着手すべく予定なりしも八月月上旬より旭街道路の大修繕に着手せし爲め遂に該道路の修繕を行ふ餘力なかりしが明春は直ちに之れか修繕に着手する筈なり

(八) 旭街人道修繕

旭街人道修繕は毎年一回つゝ修繕を行ひしも破損甚しく通行上不便尠からざる而已ならず外観上不体裁なりしを以て本年は特に四月及十二月の二回修繕を加へたる結果前年に比し大に其觀を改めたり

(九) 街樹の補植

今春三月二十二日より同三十日迄に各街路に補植せし樹木は百零八本にして各街に於ける補植數及其種類並に現在數左の如し

街名	補植樹數	現在樹數
旭街	四十七本	二百三十七本
壽街	二一本	二百三十六本
榮街	二四本	二百四本
花園街	十二本	百十本
福島街	五本	八十本

たりしに本年は幸に入室を要せず遂に傳染病室の開設を見ずして終りたるは民團創立以來本年を以て嚆矢とす、今年年中に於ける患者の轉歸を掲ぐれば左の如し

病名	患者數	治愈	死亡
實扶的里亞	一	一	一
腸室扶斯	九	九	一
不全室扶斯	一	一	一
猩紅熱	一	一	一
計	一二	一〇	二

尙左に去る四十年以來の傳染病患者一覽表を掲げて參考に資す

病名	自四十年				至四十四年			
	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年	四十七年
天然痘	八	四	四	二	二	二	二	二
假痘	四	四	四	二	二	二	二	二
實扶的里亞	一	一	一	一	一	一	一	一
腸室扶斯	一	一	一	一	一	一	一	一
不全室扶斯	一	一	一	一	一	一	一	一
發疹室扶斯	一	一	一	一	一	一	一	一
虎列拉	七	五	二	一	一	一	一	一
計	二二	一五	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

(78)

(77)

本年に於ける種痘は例年の通り日清人共無料にて施行せり、從來種痘は春秋二期に於て施行し來りしも本邦に於ては去る四十二年より種痘法の改正ありたるを以て當地に於ても特に流行を來さざる限りは之に準し年一回秋期に於て施行することとなりたるを以て本年も亦秋期に一回之を行ひたり、種痘場は昨年通り壽街浪花座を借受け十月九日より十二日迄四日間施行し尙清國人の便を圖り開口舊通潔局及天安里、常盤街附近等に出張して之を施行したりしも種痘者比較的少數なりしは甚だ遺憾なりし今日清人種痘人員數を掲ぐれば左の如し

種痘の施行	計
猩紅熱	一六七九二
計	四六二九二

(二) 種痘の施行
日本人 三百九十六名
清國人 二百五十五名
計六百四十六名

昨四十二年十一月頃より北滿洲路爾賓地方に猖獗を極めつゝありし恐るべき肺ペストは遂に南下して我南滿鐵道沿線の要地を襲ひ數名の患者を發生せしめたる由を聞くや我租界は逸早くも萬一を慮り一月十一日ペスト豫防液十壘同血精十壘を東京傳染病研究所へ注文し置きたるに南滿地方并に大連奉天の狀勢益々穩かならざる折柄一月十四日英國工部局理事より刺池行政委員會議長に宛て十五日該工部局に於てペスト豫防に關し各租界委員の打合せ會議開催に付賛同出席を求むる旨通知し來りたるを以て議長

(80)

(79)

は直に衛生担任委員及福田技師を招集し會議の結果福田技師を出席せしむることとし尙ほ同時に總領事の承認を経て東京傳染病研究所に打電し豫防液二百五十壘を更に注文する等夜を日に繼ぎて豫防事務に執掌せり
翌十五日福田技師は松村福託と共に英國工部局に開會の各租界聯合衛生委員會議に出席したり其決議事項左の如し
一、緊急動議の必要ありたる時は各國衛生委員は英國工部局理事に其旨を申出つること
二、自租界内にペスト發生したる時は之を英國工部局理事に通知し英理事は之を各租界局へ報告すること
三、各租界は患者運搬車輛を準備すること
四、清國衛生局に交渉して毎日支那市街の衛生狀況を報告せしむること
五、各國衛生委員は日、水曜日午後四時より英國工部局に會合し報告及協議すること
以上の外に隔離所及交通遮断等に就て協議する所ありたり

前記の如き有様なるを以て翌十六日行政委員會を開き小幡總領事より領事團の決議したる清國官憲へ交渉の願末、福田技師の英國工部局に於ける各租界衛生委員會議の決議事項福田軍病院長の意見等を聞きたる上防疫に關し左の決議をなしたり
一、領事館、軍隊、民團、醫會等と連合し防疫委員會を組織しペスト防疫に關する事務一切を委任すること
二、民團よりは左の六名を委員とす

行政委員會議長	菊池季吉
行政委員(衛生担任)	鈴木敬親
同	西本茂吉
民團理事	西村虎太郎
全 技師	福田三九三
全 屬託	松村利男
三、防疫委員會に於て必要と認めたる防疫費は民團より支出すること	
右に依り各委員は翌十七日領事館軍隊醫會等の委員と共に日本俱樂部に會合し防疫委員會組織の件に關し協議會を開きたる結果左の通り委員會を組織されたり	
臨時防疫委員長	小幡西吉(總領事)
同 副委員長	菊池季吉(行政委員會議長)
同 委員	平賀精次郎(醫會々長)
同	田村俊次(軍病院長)
同	本多照(軍通信長)
同	木下福磨(歩兵隊附軍醫)
同	土屋重俊(軍病院附軍醫)
同	高橋新治(副領事)
同	西村銈象(警察署長)

